

第6回 攻めの農林水産業実行本部 議事要旨

日時：平成27年4月13日（月曜日） 13時00分～13時45分

場所：農林水産省 第一特別会議室

出席者：（本省）林大臣、あべ副大臣、小泉副大臣、中川大臣政務官、佐藤大臣政務官、事務次官、官房長、総括審議官、総括審議官（国際）、技術総括審議官、検査部長、統計部長、消費・安全局長、食料産業局長、生産局長、経営局長、農村振興局長、農林水産技術会議事務局長、林野庁長官、水産庁長官

（地方農政局等）東北農政局次長、関東農政局長、北陸農政局長、東海農政局長、近畿農政局長、中国四国農政局長、九州農政局次長、北海道農政事務所長、北海道開発局次長、沖縄総合事務局農林水産部長

概要：

（林農林水産大臣）

去る3月31日に、新たな食料・農業・農村基本計画が閣議決定され、また、先週4月9日には平成27年度予算が成立し、新年度の施策が動き始めた。

この基本計画に位置付けられた各施策や、平成27年度予算の各事業が、施策を必要とする現場の農業者の皆様に着実に取り組んでいただけるよう、また、納税者である国民全体の理解を頂きながら取組を進めていくことができるよう、施策情報の周知や、これまでの成果の効果的な発信をしていく必要がある。

今回は、「攻めの農林水産業」の実行状況の報告として、「新品種・新技術の開発・保護・普及」及び「スマート農業」のこれまでの成果等について報告してもらう。

関係局長等から「攻めの農林水産業」の実行状況について報告

（林農林水産大臣）

新品種・新技術の関連では、新品種と地理的表示がインバウンドにつながっていくようにする必要がある。需要フロンティアが輸出、インバウンドに向かう中で、新品種の開発に当たりターゲットが把握できていると、よりシナジー効果が出ると思う。

ロボット・ITについては、オリンピック・パラリンピックまでには、AIシステムがかなり進んでいるという話があり、例えば単調な作業についてはAIも活用することなど研究しておいてほしい。

インバウンドの関連では、今後更に精緻化して検討を進めてほしい。関係省庁としては観光庁が挙げられると思う。

（技術総括審議官）

新品種・新技術を活用した農畜産物の創出の取組については、100又はそれ以上となるよう努力していく。輸出・インバウンド等複合的な取組が進むようにしていきたい。植物検疫の問題はあるが、輸出やお土産への活用を視野に入れて取り組むという方向性も考えられる。

ロボット技術の導入については、特に選果場の人手不足に対応する中で、自動選果技術の開発を進めていきたい。

（農村振興局長）

インバウンドについては、他の分野の状況もフォローしつつ、検討していきたい。

（あべ副大臣）

新品種・新技術の取組は素晴らしいものであると考えている。日本はモノづくりの場面では強みを発揮するものの、ビジネスモデルで他国に負けてしまうという側面があるので、農林水産省とし

でも力を入れていく必要がある。

また、先日野菜工場を訪ねた際に、エネルギーコストと人材確保が課題と聞いた。地域人材の確保について農林水産省として精査する必要がある。

(小泉副大臣)

訪日外国人が都心にのみ集中するのではなく、地方にも来てもらえるよう、伝え方を工夫する必要がある。

(佐藤政務官)

ロボット技術の活用がどの程度コストダウンにつながるのか。

(中川政務官)

先日、花関係のイベントを視察した際に、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、夏に咲いて長持ちする花の品種改良を行い、東京中を夏に強い花で飾るといった話があった。

インバウンドの関連では、今後、羽田空港のトランジット利用客が近隣の大井競馬場を訪れるようにできると、地方競馬の振興、ひいては畜産振興につながるのよい。

GPSトラクターについては、農林水産省として明確に方向性を打ち出していく必要があると考えている。

(生産局長)

暑さのため夏に咲く花は多くないが、品種改良を行っていくとともに、咲いている状態を持続させる工夫も行いながら、オリンピック・パラリンピックの開催期間中、競技場のみならず空港や駅等を含めて飾っていくことができるように取り組んでいく。

地方競馬については、今後研究していきたい。

(技術総括審議官)

ロボット技術の活用によるコストダウンの可能性については、様々な方面から追求していく必要がある。

(農村振興局長)

インバウンドについては、地域においてコンテンツとなりうるものがあるので、これらを磨き上げていくことが重要である。地域情報の伝え方として、日本に長く住んでいる在日外国人をスポーツマンとして活用する方法もある。このような手法も含め、更に検討を進めていきたい。

(生産局長)

次世代施設園芸において再生可能エネルギーを活用してエネルギーコストを抑えることができるよう、実証を進めているところ。人材確保についても、高知の次世代園芸施設の事例だが、担い手育成センターの中に園芸施設があり、担い手育成とセットで人材確保を進めている。また、農業高校との連携もある。今後も人材確保に向けて取り組んでいきたい。

(林農林水産大臣)

今後の節目としては、日本再興戦略の改訂や骨太の方針の策定などが見込まれており、これに向けてこれまでに日本再興戦略において数値目標として定めているKPIの進捗状況について整理するとともに、農政改革を更に加速化するような取組について、検討を行って欲しい。

また、前回及び本日の2回の本部における報告内容を整理してほしい。

(以上)